

1 生徒の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

R4入学 現3年生	国語			数学		
	1年時	2年時	3年時	1年時	2年時	3年時
	県 (12月)	県 (4月)	全国 (4月)	県 (12月)	県 (4月)	全国 (4月)
	51.8	54.1	52.0	50.1	43.2	42.0
	(0.91)	(0.91)	(0.95)	(0.90)	(0.86)	(0.88)
R6正答率の全国比			0.90			0.80

◎1・2年時は佐賀県学習状況調査、3年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎「令和6年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・質問紙調査から読み取れる実態

・国語科では、「必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができる」(話すこと・聞くこと)が全国
の平均正答率より0.2ポイント高い。逆に「自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる」
(書くこと)は12.2ポイント低い。また無解答率も高い。「言葉の特徴や使い方に関する事項」の指導がさ
らに必要で、知識・技能の強化が求められる。

・数学科では、全体として全国の平均正答率を10.5ポイント下回っている。その中で関数に関する問題は
比較的の平均正答率が高かった。逆に「等式を目的に応じて変形することができる」(数と式)の平均正答率
が18.7ポイント低く、「筋道を立てて考え、証明することができる」(図形)では平均正答率が16.9ポイン
ト低い。知識・技能の強化が求められる。

・意識調査からは、将来の夢や目標を持っていると肯定的に捉えている生徒が76.9%と高い。また「授業で
ICT 機器をどの程度使用しましたか」の質問に対して、週3回以上使用した割合が全国より7.3ポイント
高く、県より39.1ポイントと大幅に高く、積極的な活用がなされているが、その有用性については肯定的
に捉えている生徒の割合は全国・県と同程度であり、課題が見られる。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

・「授業づくりのステップ1・2・3」等の授業改善リーフレットを活用した取り組みを推進する。

・リーディングDX事業の取り組みとして、公開授業・授業研究会を年3回開催し、ICTの効果的な活用法を高
めていく。これを基に、個別最適な学びと、協働的な学びの充実を図る。

・授業において「見通し」や「振り返り」の場面を設定し、主体的な学びにつなげる。

・実力テストに合わせて学習強化期間を設けたり、単元テストに向けた計画的な学習を進めたりするなど、
家庭学習の質の改善を目指す。

・各教科において、タブレットドリル活用して基礎・基本の学習を繰り返し行い、定着を図る。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

・朝の会や帰りの会等でフォーサイト手帳を活用して、見通しを持ち、自ら進んで学習や生活に取り組むこ
とができるように支援する。さらにタブレット(クラウド)の活用により、家庭でも自分の学習を振り返り、
予習・復習を進めていくように支援していく。

・「家庭学習の手引き」の配布、学校HPへの掲載を通して保護者と共に学ぶ意欲や姿勢を高めていく。

・朝読書や朝無言掃除を通して落ち着いた教室の雰囲気の中で授業を開始している。

・各種行事において、生徒が主体的に取り組む場面をこれまで以上に設定していく。